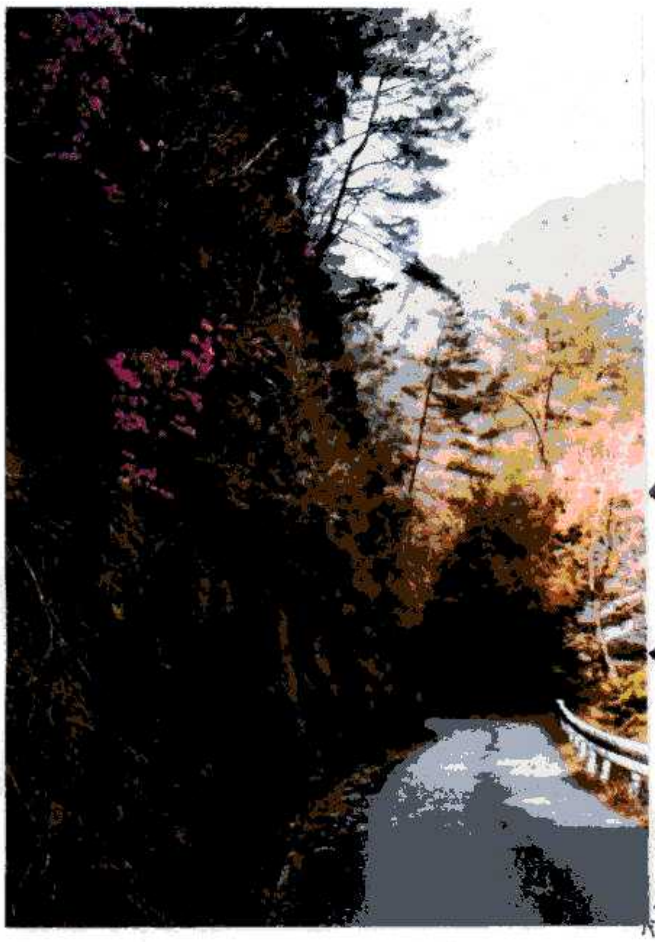
# てんぢ新聞

'10.5.No.156
発行 岡山日出夫
090-88-5292



# 活彩祖谷村の大きな課題

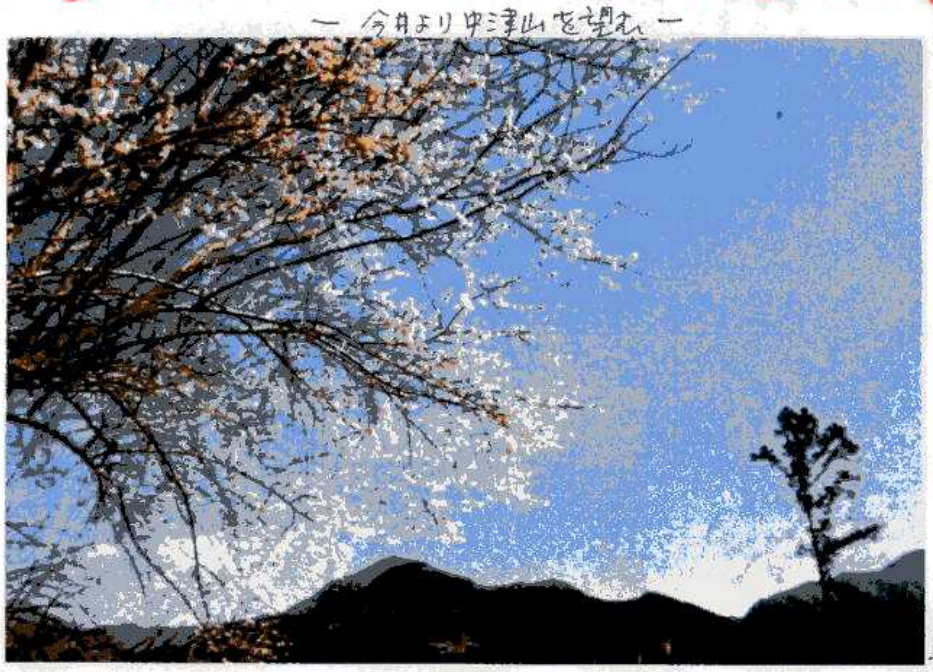
二〇〇六年三月活彩祖谷村は、高らかに独立宣言をし、四年がたちました。この間、ばあば連の皆さんが中心になって耕作している畑は、毎年ツヤが芽とそばの収穫があり活動が継続されているとはいえ労働力は限られている現状。

元気印の旗をかかげ、祖谷の地で互いに支えあい元気で暮らしていく活動も、東西祖谷よりも他の地域では強い関心がもたれ、地域住民と公共機関が手を結びあい、この運動のもつ重要性が理解され広がりをみせています。しかしながら、祖谷ではどうでしょうか、そうです。一部の人からはいいなあとの声もありますが、地域への広がりは、まだほんの少しでしかありません。

（約井義道）

# 誰が主役になるのか

— 今井より中津山を望む —



析の瀬小学校での松岡文庫には、毎月多くの図書が贈られて来ており、大人向けの本は、竜宮荘コテージに数千冊の図書室が設置されますが、利用度はいまひとつ。多くの村民から税金をどうするのかの問い合わせもあり、今回話し合いの時、税金として、宝くじ券(三〇〇円)一枚以上、また様々の使わなくなっている金券、はがき、切手などで納入してはどうかと提起はしたことも、結論が出ずじまい。と言うのも、村民の皆さんから、切手等で時々カンパして頂いているのですが、やはり、きちんと決めた方がいいのはいいのですが、それを整理し、きっちりと報告出来るようにするには、係の人が必要になります。

そこで、五年目になりますので、「村長」の勇退をし、活動のマンネリ化から一歩でも二歩でも進む必要にも迫られています。

あれもこれも、東西祖谷の中で村民になっている皆さんが、活彩祖谷村の必要性を感じ、自らに出来うることを祖谷村活動の中に飛び込み、皆さん一人一人が主役となりうる組織活動が生まれるかどうか。

他力本願では、「今」はいかと知れませんが、その「他力」はいつか祖谷の地から離れていきます。利用出来なければ捨てられるのです。

だからこそ、苦しくても、大変でも、小さくても、私達一人一人が知恵と力と協力によってやるしかないとおもうんですが